

重点施策		特別支援教育の推進		評価実施者		所 属	教育支援課
				職・氏名		課長 吉川 修	

重点施策の概要	目 的	障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組みを支援するとともに、学校生活や学習上の困難を改善し克服するため、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応した、適切な指導を実施します。					
	今年度の主要事業	①個に応じた支援の充実 ②通級指導教室の充実					

事業の目標と実績	区 分		単位	H22	H23	H24	特記事項
	1	「個別的教育支援計画」の作成を保護者から委任を受けた件数	目標	—	—	34件	23年度試行・24年度本実施
			実績	—	17件	38件	
	2	通級教室設置校	目標	—	—	5校	小3校・中2校 小2校・中1校 (通級者数 小48人・中12人)
			実績	1校	2校	3校	
	3		目標				
			実績				
	4		目標				
			実績				
	5		目標				
実績							
6		目標					
		実績					
7		目標					
		実績					

事業の分析 効果の検証	①個に応じた支援の充実・・・個別の支援を必要とする児童生徒に対して、適切な教育支援を計画的に実施し、その記録を保護者の委任を受けて作成し、幼児期から学業期までの接続を図ることが出来た。また、障がいのある子等の支援として「教育支援員」や「学びサポーター」を配置して、安定した学校生活を送ることの支援に成果があった。 24年度⇒教育支援員5名配置
	②通級指導教室の充実・・・ことばやコミュニケーションに課題のある児童生徒の特別な教育を行う教室として、市内3校に拠点として開設し、自立支援の充実を図った。 24年度⇒新規として明苑中学校に開設 通級者第二小14名・第三小36名・明苑中・12名)

課題	①個に応じた支援の充実・・・「個別的教育支援計画」の作成の目的や活用について、保護者に説明し、さらに広めることが必要である。また、すべての教員が本計画の重要性について研修する機会を確保しなければならない。 ②通級指導教室の充実・・・通級設置校に通う児童生徒の負担軽減から、設置条件が満たせば増設が必要である。
----	---

評価	A	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 学校生活の支援や通常学級との交流学习など、子どもの教育的ニーズの応えることが出来た。
		評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 現状の事業の内容の充実を図りたい。

【評価の区分】

A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
 B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
 C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。
 D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	個別の支援のいっそうの充実を図り、事業を推進したい。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピートアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	--

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	教員の知識が必要。美唄市に障がい者を多く雇用している会社がある。研修の機会を持たせてはどうか。
---------------	---